

親愛なるあなたへ

(原文)

乾 穂乃花 (16 歳)

東京都

昭和女子大学附属昭和高等学校

私は、手紙を送り合うことが好きです。その理由は言葉を口で伝えるよりも素直になれるから、相手のことを想って文字を綴る時間がとても好きだから、そして何より何度も読み返しては、温かい気持ちになるからです。

私は先日『アンネの日記』を読みました。私はキティになって、アンネに寄り添いながら本を読み進めました。すると途中で私は戦争の最中で辛い状況下にいるアンネに、直接会って労いの言葉をかけてあげられないことは分かっているけれど、せめて想いを込めた手紙だけでも送りたいと強く思いました。なぜなら、たとえ遠い場所にいても自分の気持ちを言葉にし、手紙に乗せてより近い距離でアンネの心の拠り所になりたいと思ったからです。

今、アンネと同じ状況にいる人々は一体どのくらいいるのでしょうか。ウクライナ侵攻から約一年。どれだけの人が毎日生活するのに必死で、身体も心も苦しんでいるのか私には計り知れません。

私は現地にいる方々に安らぎと勇気を与えたいと強く思っています。『アンネの日記』を読んで、苦しんでいる方へ自分が心の底からしてあげたいことに気づくことができました。

それは、ウクライナの方々に手紙を送ることができるウェブサイトをつくることです。

目的は、ウクライナの方々が辛いと感じる瞬間に私たちがサイトに投稿した手紙を読んで少しでも安らいでもらうことです。

仮にそのウェブサイトの立ち上げが実現したら、参加者で心を込めて手紙を書きます。次に、大切なのは手紙を送る方法です。インターネットでウクライナへ手紙を送る方法を調べたところ、現地に手紙そのものを届けることはまだ困難だということを知りました。

それを踏まえて考えた新しい方法は、世界中の人がウクライナの方々へ書いた手紙を投稿できるウェブサイトを作り、サイト上に手紙を投稿するという方法です。

私には、手紙に対してこだわりたい点があります。皆さんも感じるでしょうか。私は、デジタルで書かれた文字は無機質に感じてしまいます。そこで投稿する手紙はタイピングで打つ文字ではなく、その人が手書きで書いたメッセージにしたいのです。

手紙を投稿する方法として最初に思いついたのは手書きで手紙を書き、写真を撮って投稿するという方法です。しかし、画質が荒くなってしまうたり、容量が重くなってしまう投稿ができないというデ

メリットが挙げられました。

どんな方法で手紙を投稿できるかを考えていたところ、学校の情報の授業で扱った電子ホワイトボードから良いヒントをもらうことができ、私の中でベストな方法を考えることができました。その方法とは電子ホワイトボードを用いて電子機器に直接メッセージを手書き入力し投稿する方法です。電子ホワイトボードの代表例としてグーグルのジャムボードがあります。電子ホワイトボードはあらゆる場所や端末で利用可能で、動作が軽いことからスムーズかつより多くの人が手紙を投稿できることが期待できます。

日常的に電子機器に囲まれて生活している私達、若者にとって電子機器を駆使してアクションを起こせることは強みであり、魅力でもあります。

インターネットを使うことで世界中の人々と繋がり、手を取り合ってより良い世界を作ることができると強く思っています。私が思う平和とは、お互いに支えあって生きていくことです。辛い時は励ましあって共に明るい未来へと伴走をすることが大切だと思うのです。私たち若者が先頭に立ち、知識と知恵を結集させて苦しむ人々の力になれることを進んで行きそれが積み重なれば、平和への実現に大きく実を結ぶと信じています。

私の最終的なゴールは、そのウェブサイトがウクライナの方々に送る手紙のポストのようなものになり、沢山の温かいメッセージが苦しむ方々の心にそっと寄り添ってくれることです。

手紙には偉大な力があると信じています。私たちが書く手紙が、多くの人の心に灯りを灯せることを願って。